葉吊蛛の習性と記載

植村利夫

東京市瀧野川區西ヶ原町 310

私がまだ紀州に住んでゐた時のことであるから隨分前のことであるが，中野上と云ふ村に法念寺と云ふ寺があつて，其の裏にかなり大きな薄暗い森があつた。私は其の森の中へよく蜘蛛の採集に出かけたものであるが，或日のこと，それは確か秋の夕方であつたと思ふが，其の森の中にある竹籔の間で，私は腰を屈めて石をめくつてゐると，ふと地上から僅か離れた所に，極めて細い絲で造られた徑 25 cm. 位の丸網があつて，其の中央のコシキの所にうまく枯葉が懸つてゐるのが目についた。其の枯葉は簡單に丸く卷かれてゐた。併し枯葉が卷いたやうになつてゐる事は何も珍らしいことではないから，私は別にそれをとがめやうともせず，勿論その枯葉はどこかから飛んで來て偶然に網の中央に引懸つたのだらうと思つてゐた。所が不思議な事によく注意してみると，私の周圍にはそれと同じやうな蜘蛛の網が澤山あつて，どれもこれも其の中央に申し合せた樣に枯葉が吊下つてゐるのである。これはおかしいぞと思つた瞬間，其の中の或一つの網にどこからか 1 匹の小さなハヘの 1 種が飛んで來てひつかゝつた。すると突然に其のハヘを目がけて突進して來た 1 匹の可愛いゝ黄褐色の小蜘蛛があつた。たつた今までこの網にはどこにも蜘蛛の姿が見えなかつた所から察して，この小蜘蛛はたしかこの枯葉の中に隱れてゐたのに違ひないと思つた私は，早速他の網に懸つてゐる枯葉を二三採つて調べてみた所，案の定どの枯葉の中にも同樣な蜘蛛が隱れてゐた。體長 6 mm. 内外の丸く太つたオレンヂ色の蜘蛛であるが，何れも若い♀ばかりであつた。夕闇迫る森の中で，私は

この時初めてこの珍らしい蜘蛛の習性に思はず感嘆の聲を放つたのであつた。それは今から6年前の昭和8年の秋のことである。

昭和10年2月私は上京した。上京すると間もなく岸田先生と植物園へ採集に出かけたり，西ヶ原の方面を一人で毎日歩き廻つたものであつた。所が3月初旬の頃圖らずも上中里驛の西側の土堤で，灌木の下に同じ蜘蛛が棲んでゐるのを見つけた。採つてみたがやはり若い♀ばかりであつた。翌日私はこの蜘蛛のことを岸田先生に話した所，先生はそんな珍らしい習性の蜘蛛はまだ見た事がないとおつしやつてゐられた。其の後昭和11年の夏淡路島へ採集旅行をした時に同島にも其の蜘蛛が分布してゐる事を知り，又王寺幸寛氏から送られた宮崎地方の標本中にもこれが入つてゐた。私は其の形態からしてこの蜘蛛は恐らくオニグモかドヨウグモの仲間だらうとは思つてゐたが，何れも若い標本ばかりなので，あまり深くは調べもしないでそのまゝにしておいた。所が昭和11年10月に東亞蜘蛛學會主催の採集で天覽山へ行つた時，初めて一つの枯葉内に同棲中の成熟した♀♂を採集する事が出來た。私は喜んで生かしたまゝそれを持歸り，さて調べやうとした所，どうしても♂が出て來なかつた。管瓶に入れる時に不注意に♂だけを逃がしたものであらうか，すつかり落膽した私は♀もろくろく調べもしないで♂の再入手を待つことにした。やがてその♀は住居の内部へ産卵した。

斯くして多忙な私はこの蜘蛛の正確な戸籍調べをする間もなく，何時の間にか2ヶ年の歳月は過ぎ去つた。而してつひに本年6月私は學友小熊素泉・片岡佐太郎兩君と井之頭公園に採集中，片岡君に依つて完全に成熟した同居中の♀♂が再び捕獲せられた。こんどこそはと意氣ごんだ私は大いに張り切つてこの蜘蛛の戸籍調べを開始する事にした。同じ頃町田徳治氏に依つて神奈川縣神武寺山から同種の蜘蛛が採集されたが，亞成體の♀であつた。

先づ私はこの蜘蛛は丸網を張ること及び體が丸く肥つてゐる點等よりコガネグモ科の *Meta* か *Araneus* の何れかに相違ないと思つて調べてみた所，

上顎に外顆があることからして *Meta* でない事が明らかになつた。而してこの蜘蛛の頭部は胸部よりも遙かに隆起してをり，又單眼は兩列とも著しく後曲(recurve) してゐる點に於て *Araneus* でない事も明らかになつた。そこで檢索表を辿つてみるとどうしてもゴミグモ亞科 (Cycloseae) に入つてしまふ。而し今までゴミグモと云へばあの複雑なデコボコの多いさしてきれいでもない蜘蛛ばかりを見なれて來た私としては，どうしてもこれがゴミグモの仲間であるとは思はれなかつた。併し頭胸部の前記特徴はゴミグモ類に相違ないので，試みに最も普通なゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* の標本を取り出して較べてみた所，頭胸部に於ては中眼域の形が異るのみで他は全く一致してゐる。尚この研究の途中，副產物として私は豫期しない發見をした。それは前からこの蜘蛛の紡績突起の中疣は非常に變つたことに基部に近い所から矢筈狀に分岐してゐるので珍らしいと思つてゐた所，序にゴミグモの中疣を調べてみると驚いた事にこれも同樣な形をしてゐた。續いてキジロゴミグモ *Cyclosa laticauda* のを調べてみたが矢張り同樣であつた。この事からして中疣の分岐性はゴミグモ類の特徴ではないかと考察した一事である。（附記：其の後 *Argiope* 屬の中疣も斯かる分岐性のあることを知つた。）斯樣な次第でこの蜘蛛がゴミグモの仲間であると云ふ事に就て一つの有力な新事實をも發見したわけである。而して所謂ゴミグモ屬 *Cyclosa* は前邊の後邊より大なる梯形の中眼域を持つてゐるのであるが，この蜘蛛の中眼域は殆ど方形に近いので，*Cyclosa* とは區別さるべきものであることを知つた。依つて更に E. Simon 氏のゴミグモ亞科の檢索表を調べてみると，出て來たのが *Acusilas* と云ふ屬で Simon 氏が新らしく創設した (1895) ものに全く一致した。而もこの新屬の記載と同時にこれに屬する２種の蜘蛛が何れも新種として記載されてゐるのであるが，これに照合してみると，日本產の蜘蛛はジヤバ・モルツカ兩島から採集されてゐる *A. coccineus* に一致するものであることを確認した。他の１種は *A. africanus* と云ひアフリカに產するものである。

昭和8年秋初めてこの蜘蛛を紀州に發見して以來こゝに約6ヶ年，初めてこの蜘蛛の戸籍調べを完了した私の研究室には，高らかに凱歌が奏せられたわけである。習性も珍らしいし，分布も熱帶系のものであるし，種類も今の所世界中で僅かに2種と云ふ珍品でもあるから，以下私はこの蜘蛛に就て稍詳細な記載をしておきたいと思ふ。

Acusilas coccineus Simon, 1895 **ハツリグモ**（新稱）

測定 ♀は體長8—10 mm. であるが，今體長 10 mm. ある井之頭產の標本を測定した結果に依ると，頭胸部は長さ 3.5 mm. 幅 3 mm, 腹部は長さ 7 mm. 幅 4 mm. で，附屬肢の長さは次表の如くである。

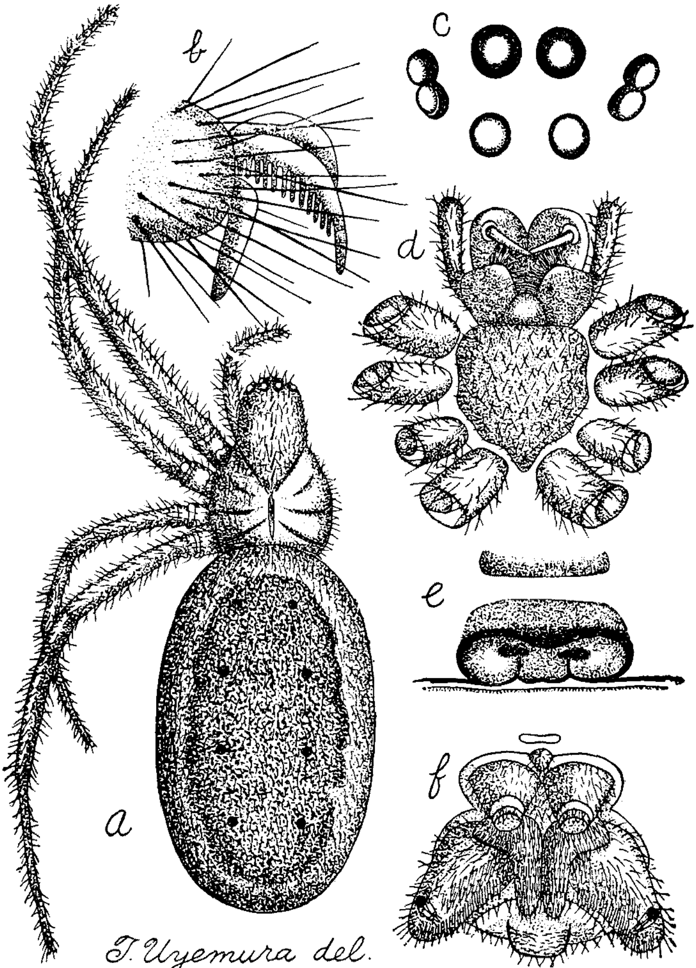
節＼肢	全長	腿節	膝+脛	膝節	脛節	蹠節	跗節
觸鬚	3. 3	1. 2	0. 9	0. 4	0. 6	——	1. 2
第1步脚	9. 4	2. 8	3. 4	1. 2	2. 3	2. 2	1 0
第2步脚	8. 6	2. 5	3. 1	1. 2	2. 0	2. 0	1, 0
第3步脚	5. 6	1. 9	1. 9	0. 8	1. 2	1. 0	0. 8
第4步脚	8. 5	2. 5	3. 2	1. 3	2. 0	1. 8	1. 0

♂は♀に較べると非常に小形で，體長は 6 mm. 特に腹部は小形で步脚は第1・第2の長い割合に第3・第4は目立つて短い。卽ち頭胸部・腹部共に其の長さは 3.5 mm. 第1步脚は 10 mm. 第2步脚は 8.5 mm. 第3は 5.5 mm. 第4は 7 mm. である。

色彩 全體黃褐色の蜘蛛である。背甲は光澤ある橙黃色で，中窩の上部に稍褐色を呈した小斑點があるが，他に目立つた斑紋がない。單眼は暗黑色で，其の周緣部は細く黑色を呈してゐる。上顎・下顎・胸板及び下唇部は背甲よりも

Plate 9　　ハ ツ リ グ モ (♀)

(植 村 論 文 附 圖)



Acusilas coccineus Simon, 1895

稍色の濃い橙黄色であるが，牙は褐色に近く，下唇部及下顎の先端部は白色を呈してゐる。附屬肢も殆ど同様な光澤ある色彩であるが，蹠跗兩節は稍色が濃い。先端の爪は何れも黑褐色である。腹部の地色は灰黄褐色で，背面の中央には大きな黑褐色の斑紋があるが，多くの場合はあまり目立たない。又幼蛛に於ては全然認められない事が多い。中央部の亞正中線には4對の小褐色筋點が目立つて見える。腹部下面は背面と同様な色彩であるが，蛛疣の前方と後方に大して目立たない黑色斑紋を持つてゐる事がある。蛛疣は橙黄色である。♂に於ては頭胸部背面は濃厚な褐紅色で，♀同様何等の斑紋を認めない。上顎•下顎•下唇部及胸板も背甲と殆ど同様な色彩で，下顎及び下唇部の先端部は♀同様白色を呈してゐる。腹部背面は黑褐色で亞正中線部に太い黑色雁木狀の斑紋があるがあまり目立たない。蛛疣の基節は紅褐色で其の緣周部は黃白色 更に其の外方は黑褐色を呈する。胃外域は褐色で其の周圍は黑色を呈してゐる。第1及第2步脚は脛節に，第3及第4步脚は蹠節に二つの黃色環紋がある。

形態 背甲は長さ幅よりも遙かに大きく，中窩及放射溝は明瞭に存在する。但し中窩は比較的短く，頭部にまで達してゐない。胸部背面には目立つた毛を有しないが，頭部には細毛があり，特に正中線上には1列に稍大きな毛が列生してゐる。單眼8個の中直眼（前中眼）は最も大きく，直眼間の距離は直眼の1.5直徑，間眼の大さは殆ど相似てゐる。後中間眼は相互に其の直徑の1.5倍距り，他の間眼とは其の直徑の2倍距る。兩側間眼は相接近してゐる。直眼と後中間眼との距離は直眼間の距離に等しい。故に中眼域は大體方形に近い形をしてゐるものである。上顎は背面より見えない。後牙堤には3個の突起を持つてゐる。下顎は高さ幅に優る矩形に近く，下唇部は半圓形に近い。何れも先端部に長い毛束を持つてゐる。胸板は5角形で各邊とも波狀を呈してゐる。觸肢の先端部には齒のある1本の爪があり，步脚の先端には十數本の齒を持つた2本の上爪と無齒の下爪とがある。蹠節及跗節下面には多數の刺毛がある。腹部は長楕圓形である。蛛疣は他のゴミグモ類同様腹部後端より稍前方に位置し，中

疣は基部に近い所から矢筈狀に分岐し，其の1端は後疣の間に細長く伸びてゐる。間疣及び其の前にある氣管氣門は明らかに見える。腹部にある細毛は全體に紅色を呈してゐる。♂は♀に較べるとはるかに小形で，頭部は♀に較べると短く圓形に近い形をしてゐる。眼は兩側とも著しく後曲（recurve）し，其の距離の比は♀に似てゐる。

習性 日光の餘り直射しない樹蔭に中庸な縱丸網を張り，必ず枯葉を卷いて其の中央に吊下げる。其の枯葉は濶葉樹の枯葉のこともあり，笹の葉等を使用する事もある。井之頭で採集した1種は長い笹の葉を基部で卷き，先端部は折曲げて袋狀にしてゐた。葉を卷くと云つても千卷狀に卷くのではなく，兩縁を縫合する程度なのである。蜘蛛自體は其の枯葉の中にひそみ，蟲が網にかゝれば飛び出してそれを捕へる。6, 7 月の頃から♀♂共に成熟し，一つの住居に暫く同棲する，卵は其の住居の內壁に楕圓形に産みつけられ，其の上を薄く絲でかゞるだけである。卵は年內に孵化するものゝやうである。私は今日（8 月15日）裏庭で本種の仔蛛を多數採集したが，何れも最近一人立ちしたものゝやうであることからしてもそれがわかる。それでも一人前に小さな丸網を張つて枯葉を釣り上げて網に吊下げるのを目擊した。造りたての網はきれいであるが，風にゆられ日光が直射すると次第に縮れ又切れてゆく。この點から見てもこの蜘蛛の網は日光の直射する所又は風の强い所には適しないやうである。この蜘蛛が必ず樹蔭の靜かな所に棲んでゐる理由も首肯出來る。

分布 日本に於ける既知の産地は前記したやうに和歌山縣（植村採），東京（植村採），天覽山（植村・加藤・仲辻・深澤採），淡路島（植村採），宮崎（王寺採），井之頭（片岡・小熊・植村採），神武寺（町田採），愛媛縣（高橋採）等である事からして殆ど全國に分布するものであらうと思ふ。海外に於てはジャバ・モルツカ兩島に産する。

圖版說明 a. ハツリグモ *A. coccineus* の♀背面　b. 同步脚先端の爪　c. 同頭胸部下面　d. 同單眼の配列　e. 同性域　f. 同蛛疣（特に中疣に注意）。